

AED講習会(2024.11.13)

高校2年生全員を対象としたAEDの講習会が開かれました。

AED（自動体外式除細動器）とは、心臓がけいれんし血液を送り出せなくなる「心室細動」が起こったときに電気ショックを与え、心臓を正常なリズムに戻すための医療機器です。2004年7月より医療従事者でなくても使えるようになり、2022年には全国に67万台が設置されています。

心臓の不調が原因で倒れた場合、救命措置は時間との戦いで、助かる可能性が1分ごとに約10%ずつ下がりますので、素早く動けば、それだけ命を助けられます。AED使用に際しては自動音声流れ、それに従えば誰でも簡単かつ安全に機器を操作できますが、もし現実に人が倒れている場面に遭遇した時、ただちに適切な行動を取るためにはやはりある程度心得が必要です。

そこで、本校ではいざというときに生徒諸君が動けるよう、十数年前から毎年、高校2年生を対象にAED講習を行っています。今年も鹿児島市にある社会医療法人天陽会中央病院様の絶大なご協力を賜り、約20名のスタッフに来ていただき、11月13日の5～7限(保健体育の時間)を使って2クラスずつ実施しました。

まず循環器内科の厚地伸彦先生が、パワーポイントを使ってAED設置の現状や、AEDを迅速に使用した場合の救命率や社会復帰率の高さなど、講習の意義について説明されました。

その上で胸骨圧迫による心臓マッサージのしかたにつき看護師さんにレクチャーしていただき、そのあとは生徒3～5人に看護師さんが1人ついて、練習用の人体模型を相手にして一人ずつ実践しました。メトロノームの音を流して押すタイミングを調節しつつ、手の組み方や押す場所、押す強さについて看護師さんから一人一人の生徒に具体的なアドバイスをいただきました。

次にはAEDの使い方についてレクチャーを受け、その3～5人のグループに1台ずつ用意された練習用のAED機器を使い、蓋を開けスイッチを入れ、電気パッドを貼り通電するまでを一人ずつ実践し、貼る位置や、通電に際して周りの人を遠ざける動作などについて看護師さんからアドバイスをいただきました。

最後は何人かで役割分担し、倒れている人(人体模型)を見つけた人がまわりに119番通報やAED持参を指示しつつ心臓マッサージを行い、AEDが到着して通電するまでを交代で体験しました。

一刻を争う状況に立ち向かうために、自分で練習しておくことがいかに大切か、そばで見ているとよく分かりました。

お忙しい中、多くのスタッフを派遣してくださった天陽会中央病院様、そして長時間にわたり懇切丁寧にご指導くださった厚地先生・スタッフの皆様に、改めて深く感謝申し上げます。

